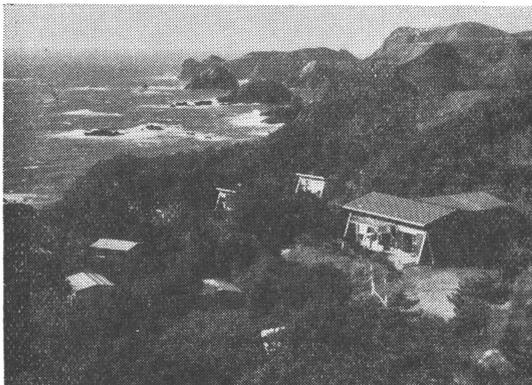


## 地方だより

つい最近迄文化という言葉にそっぽを向かれ静に眠っていたこの南伊豆地方は観光日本の掛声と共に重い未開の扉も序々に開かれ、大飛躍への暁を向えるに至っております。その風光明媚な南伊豆の中でも最絶景、最南端の場所に位置せる我が長津呂測候所は訪れるというより押寄せると表現の方がより適切な著増せる観光客、沖合航行の船舶そして常時数十隻或は百隻以上の沖合漁船に対する気象サービスに日夜忙殺される状況となっております。加うるに地震津波観測も実施し大地震による津波の警戒に不断の努力を傾けております。

亜熱帯の地、南伊豆の我が測候所からの眺望は遥か水平線上には画の様に浮ぶ伊豆七島、又足下の岸には碎けて飛び散る潮の花が様々の調和と情趣をそえ混然一体、雄大無類如何なる筆舌にも尽し難く訪れてこそ始めて知る天下の大絶景であります。而して厳寒の候といえども0℃以下を観測する事は稀であり従って霜、霜柱、



測候所横バンガロー全景  
左右を合せると当所海岸の景観となる

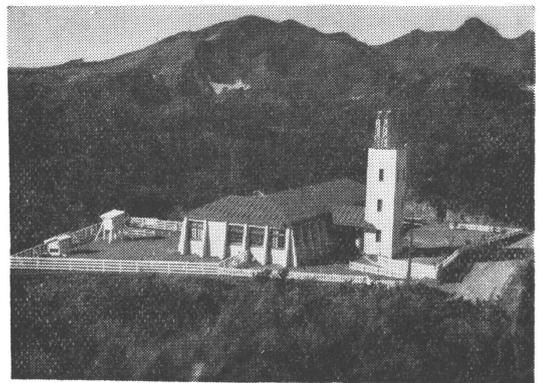
結氷、雪等も極めて少い日数に限られ一寒候期を通じて2~3回というのが通例であり、全く発現しない要素もございます。然し冬期に於ける西の季節風は全く天下に名高い処であり暴風日数(10m/s以上)をみましても月平均25日を数え、15m/s以上の回数も月平均16日を数えており20m/s以上を観測する日も珍しい事ではございません。従って我が測候所沖合の海上では平均3日に一隻の船舶事故(下田保安部調)があり古来より航海の難所として船人には著名な処となっております。又夏季の台風シーズンは其の通路に当り台風銀座の感があり都心への台風監視所としての重要な役割に敢闘心を燃し大いに

## 長津呂測候所

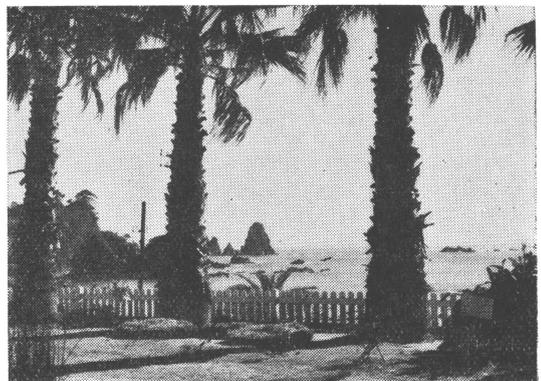
張切っている次第であります。こゝ数年来巨大な台風の眼に入る事、数回に及び我が測候所員は台風の威力の偉大さに実感をもってお答え致すことが出事のベテランぞろいであります。因みに本年5907号の場合はダインスは完全にスケールアウトし64m/s以上を記録、測定不能となり大被害をもたらしております。

最近は気象人の来訪も多くなり殊に新婚の方々の来訪も目立って来ました。又冬期は不適でございますが夏季(5~10月位の間)には我が測候所横には静岡県営のバンガローが十数個ございまして多数の観光客が利用致しております。最近は又某大資本の手ものびダイナミックな開発が実施されようとしております。全く知られざりし一寒村が数年にして天下の観光石廊崎としてネオンまたゞく町となり地方色豊から土産物店が軒先を連ねて皆様をお待ちする程の盛況となっております。

(写真と文 石井徳治)



測候所全景



当所近くの亜熱帯植物園の一部